

# テレビを見るコンピュータ

## お鮎を食べるコンピュータ (技術的特異点と電王戦)

最近、2030年問題や2045年問題を耳にしたり、目にする機会が多くなった。

2030年問題：諸説あるが、概ね人間様の「仕事が無くなる」ことがコアなところ。

2045年問題：コンピュータ（人工知能）がよいよ進化の極みの局面に達し、コンピュータが人間様の遙か頭上から人間様を使いこなし（今でも十分コンピュータに使われていますが）人間様にはもうその制御が不可能となり、人間様の存在意義が失われてしまう可能性がでてくるというSFのような話の現実性が帯びることがそれらの本質の一つ。

その2045年には人間様はどうなっているのだろうか。これを書いている人間様は今の平均寿命の少し上を生きることになるようだが、本質的に〇〇（能天気的最上級）だから生存の可能性は大。本邦の人口予測をWeb上数多あるグラフから読み取ると、概ね1億人。人間様としてそうであろうが、その人間様の人間様としての哲学的・道徳的存在意義の対極的位置に存在する思想がコンピュータによって導き出され、生物学的には生存しているのだが、コンピュータ上意義のない進化が止まった動物の一つやその思想においての「死者」扱いに仕訳されてしまう可能性は否定できない。（あくまで仮説）そして、人間様はその仕訳から逃れようと行動を起こした瞬間、もう完全に支配下に入ることになる。

2045年にはテレビは存在するのであるか？ 先ずはソフトから、今でも①コンテンツあり過ぎ、②内容が極めて希薄、または同じ様な内容の番組があり過ぎ、③テレビ以外のコンテンツに移行しつつある。が関係各位には申し訳ないが、個人的な見解で離れつつある。したがってその時点では存在が？となる。ハードも映像と音を出力する何かに置き換わる可能性さえある。もし仮に、番組制作が電腦上で全て処理されるとなると、その評価も電腦上で処理されることになり、電腦がゲラゲラ笑うのかと想像すると恐ろしい。

人間様が生物的に生存するのに必要な食物。2045年はどうなっているのか？ 人間様にとって、美味しさ・楽しみ・ありがたさ・喜び等がより進化したものを望むが、電腦には必要ないし、今でも若干「エサ化」しているが、人間様を支配下に置いた時点ではもう「エサ」としか取扱わないであろう。人間様が真心込めて創り上げた「お鮎」も何らかの検査機器を介し、その電腦上の思想により不要と仕訳される可能性は大いにあり得る。最期の晩餐は「お鮎」としたいし、不要と存続しないのなら、そこまで長生きしたくない。

電王戦（将棋）は2045年にはどうなるのか？ 今でも素手VS刃物の感は否めないしそれ以上かも知れない。その時点ではもう、素手VS何なのかは想像もできない。個人的に（1将棋ファンとして）人間様の制御が効力を発揮できる内に早くやめた方がよいと考えている。逆に電腦VS電腦は推進すべきであり、これを電王戦とすべきではないか。